

平成27年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
女性の活躍

働きやすい環境と部門分担責任制の下で女性経営者として事業展開に貢献

○氏名又は名称 株式会社 百姓屋 (代表 市丸 道雄)

○所在地 佐賀県伊万里市

○出品財 経営 (肉用鶏他)

○受賞理由

・地域の概要

佐賀県伊万里市は、佐賀県の北西部に位置し、西は長崎県、東と北は唐津市、南は武雄市に接している。年間平均気温は15.7℃、降水量は2,100mmと温暖な気候に恵まれ、水田農業と併せて果樹、施設園芸、畜産などとの複合経営が営まれ、特になし、ぶどう、肉用牛、ブロイラー、きゅうりは県内でも有数の銘柄産地を形成している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

道雄氏は、「子供達に働く父親の姿をみて大きく育ててほしい。そのために農業を継いで妻とともに働く」と決心し、平成6年(35歳)で会社を退職し、妻の初美氏とともに就農した。就農半年後には道雄氏がブロイラー部門、初美氏が花木部門及び経営管理部門と役割分担を明確化した。以降、初美氏は複式簿記を学び、パソコンによる記帳管理・申告を行うとともに、平成12年には収益が低下した花木部門を花苗生産に転換し経営の健全化を図り、平成20年には直売所「百姓屋」を開設、両親の働く姿を追って就農した子供達とともに、平成24年に農業生産法人「株式会社 百姓屋」を設立した。

・受賞者の特色

(1) 技術の裏付けと明確な役割分担でゆとりある農業経営の実現

技術面では、平成17年に県内系統ブロイラー農家の中でいち早く「セミウィンドレス鶏舎」を整備して生産効率を高めるとともに、地域ブランド産品として市場評価の高い「骨太有明鶏」やそれを原料としたオリジナル加工品「山ん鶏」の生産により、高付加価値・有利販売を実現している。また、花苗生産では、ブロイラー部門で生産した鶏糞を積極的に活用して化学肥料の低減化を図っているほか、女性の細やかな観察力を活かした早期病害駆除の徹底により薬剤使用の低減化を図り、経営全体で環境負荷低減を目指している。

経営面では、就農半年後に決めた役割分担やルールをより明確化するため、平成13年に家族経営協定を締結した。その後、長男が就農した平成17年と23年にも再締結を行い、経営全体の目標、個々の目標・夢を具体的に掲げるとともに、給与制の導入や農休日の設定により、ゆとりのある農業経営を実現している。

(2) 女性の能力発揮と安心して働き続けられる環境の整備

就農と同時に初美氏が複式簿記を習得し、就農時に両親から引き継いだ負債の償還計画を立案し、家族一丸となって農業経営の健全化を図った結果、17年に完済した。また、初美氏名義で事業の計画・申請・資金借入による直売所「百姓屋」をオープンするなど独立した女性農業経営者として主体的に経営に参画している。

女性の登用と労働環境面では、役員3名中1名、社員5名及び臨時雇用職員全員が女性であり、産前・産後休暇や育児休業制度の創設・活用を図る(現在社員1名が産後休暇取得中)など、女性が安心して働き続けられる環境を整備している。

・普及性と今後の発展方向

初美氏は平成10年に地域の農家とともにパソコン簿記記帳会「らくらく会」を立ち上げ、約10年間、代表兼講師として活動し、地域の経営体の経営改善にも大きく役立っている。また、家族経営協定の推進や、農村女性の地位向上・社会参画に向けた活動、伊万里市産農畜産物のPRや情報発信の面でも地域のリーダー的存在としての活躍が期待される。今後は、ブロイラー部門は疾病対策に特に配慮した生産体系を構築しつつ規模拡大を進めるとともに、花苗部門ではガーデニングコーディネーターの資格を取得し、消費者ニーズにより柔軟に対応した花苗の提供、直売部門ではネット販売によるPR活動や消費者交流も展開する予定としている。